

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200792		
法人名	株式会社 りまる		
事業所名	グループホーム 大地(海)		
所在地	岡山県倉敷市笹沖599-5		
自己評価作成日	令和 4 年 3 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200792-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 3 年 3 月 23 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念に基づいてアットホームで家庭的な事業所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大きく描かれた理念が、玄関に掛けられ、利用者の笑い声が、耳に響いてきた。引き継ぎの申し送りをはっきりとした声で明確に伝え、そのトーンも雰囲気合っていて、明るく、楽しく、一丸となって働いている姿も垣間見れた。コロナ禍でも、リビングでは、大好きな音楽を調べている。ボール投げや絵合わせゲームのレクリエーションから、できる限り外出の一環に結び、クリームパン・アンパン・メロンパン等を選び、買い物する楽しみを抱かせ、近くのパン屋さんへ足を運ぶまで、バイタリティーをもって、利用者の一つでも楽しめるアイデアの完成に近づけている。職員の声も全て管理者も理念に沿って、社長を巻き込みながら、解決に近づけている。些細なことでも遠慮なしに社長に参加して頂き、社長も卓話から理念をベクトル合わせている。職員も身を引き締めて、同じ方向に歩んでいる。職員は、利用者の一人ひとりの名前をお呼びして、反応や表情、仕草から、何がしたいのかと先読みをして、利用者を落ち着かせている。そんな生きがいをもった人たちが集まっていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	有限会社アウルメディカルサービス			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員、来所者にも解りやすいよう玄関に掲示しています。	理念は玄関に大きく手書きしたものを掲示して、全体に見やすいように周知している。日々の生活の中で理念に沿って介護できているのかを施設長、管理者は職員に伝え、社長への思いを浸透させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍実践が困難になっているが現状です。	隣の畑で農作業中の方や犬を散歩している方と挨拶を交わしている。施設前が通学路となっているので、学童に手を振って挨拶を交わすこともあり、身近でできることを実践している。車イスで通行中に立ち止まってくれる親切な中学生もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で不十分です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通信にて研修の資料送付して頂いたり、返信しています。	コロナ以前は、民生委員、高齢者支援センター、家族、利用者が参加していた。現在は書面にて開催している。	コロナ終焉に向けて、多くの人に参加して頂けるように今から準備をしてみたいかがでしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	それぞれの課の担当者と連絡を取りながら協力関係を築いています。	窓口は、2階の管理者。市町村とは何でも話せる関係ができていて、情報交換もスムーズにできています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル作成、現教会の時間を作っています。	委員会は3ヶ月に1回。夜間は安全面に配慮して玄関のみ施錠をしている。スピーチロックには細心の注意を払い、「汚い」や「ダメ」などの言葉を使用しないことや、利用者の近くに行って話すことで安心感を与えられるように工夫している。	もっとわかりやすく、全員に浸透できるように掲示物や手法書を作成して身近にできるようにしてはいかがでしょうか？
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成しています。勉強会の時間を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し学ぶ機会を増やし活動支援につなげたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明を行った上で同意を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会を設けていませんが、その都度傾聴する様になっています。	利用者の食べたい物(卵焼きやキムチ)の提供やアンパンが食べたいという要望を叶えた。食が細くなった利用者には、ゼリーを提供している。家族の方が来られたときに、意見を聞くことで要望を叶えられるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、リーダー会議の時間を意見交換の場として活用しています。	全体会議、リーダー会議を月1回開催している。処遇会議にて現場の意見や提案が多く出るので、職員の業務改善に役立っている。職員間の仲が良いので、情報共有がしやすく、連携が取りやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況を把握し評価につなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修への参加を促すとともに個人表評価表を活用しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流不十分になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時しっかり関わるとともにコミュニケーションを図りGHでの生活の意向を聞きながらケアプランを作成しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に生活の意向を聞きながらケアプランを作成しています。随時、要望等面会時にお聞きするようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者、看護師と相談し、家族、本人の希望に添うよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の関わりの時間を大切に過ごしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍、困難もありますが短時間面会や窓越し対面や電話連絡等行いました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	徐々に不十分になってきています。	携帯電話で連絡したら、馴染みの方が急遽来てくれて面会を行ったこともある。ユニット間での交流もあるので、一緒に散歩をして写真を撮ったり、花を見たりして過ごしたことで、新たに身近での馴染みが出来た。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り一緒に出来る事をしたり談話が出来るとような環境作りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	不十分です。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに取り入れたり日々の生活の中で の要望には出来るだけ対応出来る様に心がけています。	「今日はいい天気だね～」などの日常会話から始めることで、利用者が話しやすいように工夫している。名前を呼ぶと喜んでくれる利用者もいて、そこからの表情や仕草を見て、読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や本人に生活歴を聞いたり、 日常生活の関わりを大切にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護面看護(医療)面それぞれ個人記録に残し 申し送りを行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の時間を活用し処遇を話し合い、毎月モニタリングをしています。	家族と本人の意向を聞いた上で、暫定プランを作成し、その後3ヶ月、6ヶ月毎に介護計画を作成している。日々の介護の中で記録を残し、会議にて話し合いをすることで、今後の方針を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にて情報の共有を行い、問題があれば話し合いを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望に合わせて常に柔軟な支援が行える様に努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々に往診医療を受けられたり、医療機関への受診もしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診して頂き早期に相談指示がもらえる様にしています。	かかりつけ医は個人によって違うが、往診に来て頂ける。ドクターとは冗談を交えて話せるくらい仲が良く、何でも言える関係ができています。看護師も毎日常駐しているので利用者は安心して生活することができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化、気づきを報告し共有しています。状況によりDrに相談等して頂く。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供書に基づいて助言等もらっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成し家族本人に説明し同意書を頂いております。	ターミナルは行っており、2ヶ月前にも実施した。デスカンファレンスにて、良かったことや次回に向けての確認を行っている。社内研修も月1回開催し、レポートを提出することで学びを深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル、ファイル作成をして職員が分かる様に工夫しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方にも協力して頂ける様電話連絡が取れる体制作りをしています。	年2回昼夜想定で火災訓練を実施した。事務所に連絡網、廊下にハザードマップを掲示している。避難場所については、他のGHとも連携が取れている。備蓄は、協力施設の方で一括管理をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけや、コミュニケーションを行なう様にしています。	呼称は基本苗字に「さん」付けだが、利用者の要望に合わせて家族の了承の基、「ちゃん」付けで呼ぶこともある。居室に入る時は、必ずノックしてから入るようにしている。親しみを込めた岡山弁で会話することもしばしばあり、親しみを感じる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で希望や要望を聞いたりしています。突発的な訴えに対してはしっかり傾聴する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ケアプランにて生活への方針を定めています。個々に合わせるよう心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食事形態を把握しています。テーブル拭きや下膳の手伝いをされています。	朝ご飯はすべて手作り、昼と夜はご飯と味噌汁のみ作っている。好きな時間に起きても利用者に温かいものを出したり、利用者が食べやすい形状にして提供したりしている。畑で採れた旬の野菜も食卓に並ぶこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を活用し不足等に対しては好みの物を提供したり柔軟な支援を心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄パターンを把握し声かけを行う。	トイレは各ユニット2ヶ所ある。排泄チェック表を活用しているため、スムーズにトイレ誘導ができ、オムツから布パンツに変わった事例もある。布パンツを維持されている方も数名いる。夜間のみ安眠に考慮して、パットやPTトイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、牛乳、ヨーグルトの提供をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望を聞いたり個々のペースに合わせて様になっています。	週2～3回。利用者の入りたい時間、日時や同性介助などの希望をできるだけ叶えられるように配慮している。シャワー浴の方には足浴と蒸しタオルを提供し、気分を変えて入浴剤を使用する場合もある。季節を味わえるゆず湯も提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせその都度の対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に服薬中の薬の説明書があり、NS職員との共有を図るようにする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でしっかり関わる時間を大切にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍になり不十分になっています。	近隣の公園への散歩や受診時のドライブが楽しみとなっている。近隣のパン屋さんへの買い物も楽しみの一つ。外出ができない中で、ボール投げのレクリエーションを開催したり、利用者が考案したキャップ数字当てゲームが好評で、フラストレーション解消への工夫がみられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お小遣いを持った方もいますが使用していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望に合わせて行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方と相談しながらテーブルの配置を変えたりしています。	テレビを観たり、ティータイムを楽しんだりして、ゆったりと過ごす利用者の姿があった。壁面には、ひなまつりの絵が飾られていて季節感が味わえるようになっている。大地新聞には楽しく笑顔の利用者が窺えた。テーブルの配置を変えることで、気分も変わるのでストレスの軽減に繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日々自分の好みの場所で過ごしてもらっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	近い慣れた物を持ってきて頂いたり、写真等も飾ったりしています。	備え付けは、エアコン、カーテン。馴染みの筆筒やラジカセを持ち込んでいた。壁面には寅が描かれた職員からの大きな年賀状や職員と笑顔で楽しそうな様子の写真が飾られていた。窓を開けると爽やかな風が吹き抜け、快適に過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備を行い、事故のない様に心がけています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200792		
法人名	株式会社 りまる		
事業所名	グループホーム 大地(空)		
所在地	岡山県倉敷市笹沖599-5		
自己評価作成日	令和 4 年 3 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200792-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 3 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念に基づいてアットホームで家庭的な事業所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大きく描かれた理念が、玄関に掛けられ、利用者の笑い声が、耳に響いてきた。引き継ぎの申し送りをほつきりとした声で明確に伝え、そのトーンも雰囲気合っていて、明るく、楽しく、一丸となって働いている姿も垣間見れた。コロナ禍でも、リビングでは、大好きな音楽を調べている。ボール投げや絵合わせゲームのレクリエーションから、できる限り外出の一環に結び、クリームパン・アンパン・メロンパン等を選び、買い物する楽しさを抱かせ、近くのパン屋さんへ足を運ぶまで、バイタリティーをもって、利用者にも一つでも楽しめるアイデアの完成に近づけている。職員の声も全て管理者も理念に沿って、社長を巻き込みながら、解決に近づけている。些細なことでも遠慮なしに社長に参加して頂き、社長も卓話から理念をベクトル合わせている。職員も身を引き締めて、同じ方向に歩んでいる。職員は、利用者の一人ひとりの名前をお呼びして、反応や表情、仕草から、何がしたいのかと先読みをして、利用者を落ち着かせている。そんな生きがいをもった人たちが集まっていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	有限会社アウルメディカルサービス	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議の時に全員が理念を書き認識を新たにしています。職員は一つ一つの行動が理念に基づいて行うよう努力しています。	理念は玄関に大きく手書きしたものを掲示して、全体に見やすいように周知している。日々の生活の中で理念に沿って介護できているのかを施設長、管理者は職員に伝え、社長への思いを浸透させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により活動が出来てない状態です。	隣の畑で農作業中の方や犬を散歩している方と挨拶を交わしている。施設前が通学路となっているので、学童に手を振って挨拶を交わすこともあり、身近でできることを実践している。車イスで通行中に立ち止まってくれる親切な中学生もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により活動が出来てない状態です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により活動が出来てない状態です。	コロナ以前は、民生委員、高齢者支援センター、家族、利用者が参加していた。現在は書面にて開催している。	コロナ終焉に向けて、多くの人に参加して頂けるように今から準備をしてみたいかがでしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護福祉課、生活福祉課の担当者と連携を取りながら協力関係を築いています。	窓口は、2階の管理者。市町村とは何でも話せる関係ができていて、情報交換もスムーズにできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な社内研修により「身体拘束をしない基準」を認識している。出入口の解放、禁止言葉を発しない命令口調で言わない事等実施。	委員会は3ヶ月に1回。夜間は安全面に配慮して玄関のみ施錠をしている。スピーチロックには細心の注意を払い、「汚い」や「ダメ」などの言葉を使用しないことや、利用者の近くに行って話すことで安心感を与えられるように工夫している。	もっとわかりやすく、全員に浸透できるような掲示物や手書きを作成して身近にできるようにしてはいかががでしょうか？
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアの段階でお互いに注意しながら虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	不十分な為学ぶ機会を持ち活用支援に繋げていたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、利用者や家族等の不安や疑問点に対し十分な説明を行い、納得理解を得る様になっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会を設けていませんがその都度聞く様に心がけている。	利用者の食べたい物(卵焼きやキムチ)の提供やアンパンが食べたいという要望を叶えた。食が細くなった利用者には、ゼリーを提供している。家族の方が来られたときに、意見を聞くことで要望を叶えられるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、リーダー会議を設け意見交換の場として活用しています。	全体会議、リーダー会議を月1回開催している。処遇会議にて現場の意見や提案が多く出るので、職員の業務改善に役立てている。職員間の仲が良いので、情報共有がしやすく、連携が取りやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況を把握しきちんとした評価に繋がっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順次職員に外部研修への参加を進めています。また、内部研修などを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であまりできていないが、他GHとの運営推進会議を通して相互交換をしい点を取り入れ向上を目指しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にはコミュニケーションを図り本人が困っている事不安な事要望等に耳を傾けながら安心を確保するための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には家族等が困っている事、要望等に耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で本人と家族等がその時まず必要としている支援を見極め他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生きている私たちという思いを持ち利用者を尊敬し楽しく過ごすよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にご家族の名前を忘れないよう伝えたり、写メで現在の元気な姿を見ていただいている。GHに居られてもご家族の一員であることを認識して頂くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者からの旧友からの電話を取り次ぎお話しして頂きGHに来たい時は来て頂きゆっくりお話しして頂いている。	携帯電話で連絡したら、馴染みの方が急遽来てくれて面会を行ったこともある。ユニット間での交流もあるので、一緒に散歩をして写真を撮ったり、花を見たりして過ごしたことで、新たに身近での馴染みが出来た。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	情報の交換や世間話ができるよう気の合う利用者と同じテーブルに座って頂く、どの利用者もこの一員であることを認識して頂くようスタッフが仲を取り持つ、輪になりボール遊びをする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	不十分になっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「散歩をしましょうか」と言えばすぐに応じる。パンが食べたい、牛乳が飲みたい、キムチが食べたい等の要望はすぐに応じられるがコロナ禍であまりできない事もある。	「今日はいい天気だね～」などの日常会話から始めることで、利用者が話しやすいように工夫している。名前を呼ぶと喜んでくれる利用者もいて、そこからの表情や仕草を見て、読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族・本人から生活歴等聞いたり入居後もお聞きしていく様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今日一日何か本人らしいことが出来たか穏やかに過ごせたか介護面、医療面での特変等を記録に残して次の勤務者に伝えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	処遇会議でチームで良く話居ている。	家族と本人の意向を聞いた上で、暫定プランを作成し、その後3ヶ月、6ヶ月毎に介護計画を作成している。日々の介護の中で記録を残し、会議にて話し合いをすることで、今後の方針を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録と共に介護計画に基づくケアが出来たか記録し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	好みや体調に合わせたおやつ食事内容、排泄の介助の仕方等多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問診療を利用している。訪問理容も利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を訪問医療にいただき適切な医療関係が築けている。	かかりつけ医は個人によって違うが、往診に来て頂ける。ドクターとは冗談を交えて話せるくらい仲が良く、何でも言える関係ができています。看護師も毎日常駐しているので利用者は安心して生活することができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の異常や気づきを職場の看護師に伝え個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるようしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	最近では利用者の入退院が行われていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの社内研修を行い終末期の対応に全職員が備えている。医療・看護・介護・家族との連携を取り尊厳を保ちながら終末期を過ごすよう取り組んでいる。	ターミナルは行っており、2ヶ月前にも実施した。デスカンファレンスにて、良かったことや次回に向けての確認を行っている。社内研修も月1回開催し、レポートを提出することで学びを深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応シートを作成し急変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、見えやすい所に掲示しています。地域の方にも協力して頂ける様電話連絡が取れる体制を作っています。	年2回昼夜想定で火災訓練を実施した。事務所に連絡網、廊下にハザードマップを掲示している。避難場所については、他のGHとも連携が取れている。備蓄は、協力施設の方で一括管理をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時は、失礼します等と利用者が不安な気持ちを持たないような声かけを行っている。	呼称は基本苗字に「さん」付けだが、利用者の要望に合わせて家族の了承の基、「ちゃん」付けで呼ぶこともある。居室に入る時は、必ずノックをしてから入るようにしている。親しみを込めた岡山弁で会話することもしばしばあり、親しみを感じる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今何がしたいですか等思っていることを何でも言葉に出して頂く様な雰囲気作りをして言っていたかと「ありがとう」と感謝の言葉をかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パンが食べたいと言われればその日のおやつをパンに変えたり散歩に行きたいと言われれば散歩を優先して行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は娘さんが居られれば購入を依頼したり、息子さんだけの場合は、スタッフが購入させて頂き出来るだけ新しく本人に似あう衣類を着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	軟飯・お粥、副食は刻みや一口大、ミキサーにして個々に合わせた食べ物を提供している。	朝ご飯はすべて手作り、昼と夜はご飯と味噌汁のみ作っている。好きな時間に起きても利用者に温かいものを出したり、利用者が食べやすい形状にして提供したりしている。畑で採れた旬の野菜も食卓に並ぶこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を把握して摂取量を記録している。摂取が出来なかつたり少ない日には、プリンやゼリー等の口当たりの良いものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎夕食後本人に合った口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食後特に(朝食後)トイレでの自然排便を促している。	トイレは各ユニット2ヶ所ある。排泄チェック表を活用しているため、スムーズにトイレ誘導ができ、オムツから布パンツに変わった事例もある。布パンツを維持されている方も数名いる。夜間のみ安眠に考慮して、パットやPTイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食時にヨーグルトを提供水分もしっかり摂って頂く様にしているが、-3日には個々に合った方法で排便を出すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番風呂が良いという方に一番風呂を提供している。火・木曜日に入りたいという方にはそうしている。	週2~3回。利用者の入りたい時間、日時や同性介助などの希望をできるだけ叶えられるように配慮している。シャワー浴の方には足浴と蒸しタオルを提供し、気分を変えて入浴剤を使用する場合もある。季節を味わえるゆず湯も提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の年齢や体力や生活習慣や本人の思い、健康状態に合わせて休息して頂いている。入眠中も温度や物音等に注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容を理解するよう努めている。服用時はスタッフ二人で名前・日付を確認し飲み込むのを確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が大好きな数人でのボール遊びをよくしている。季節のおやつ作りを一緒にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で現在は出来ていない。	近隣の公園への散歩や受診時のドライブが楽しみとなっている。近隣のパン屋さんへの買い物も楽しみの一つ。外出ができない中で、ボール投げのレクリエーションを開催したり、利用者が考案したキャップ数字当てゲームが好評で、フラストレーション解消への工夫がみられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理している利用者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	息子さんに電話をかけ二人でお話をして頂いている。旧友からの電話を取り次ぎゆっくり話をされ友人がGHIに遊びに来られた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	要らないものをホールに置かないようにしてテーブル、ソファ等の配置を利用者がゆっくりとくつろげるようにしている。また、季節感が味わえる壁画、花等を飾っている。	テレビを観たり、ティータイムを楽しんだりして、ゆったりと過ごす利用者の姿があった。壁面には、ひなまつりの絵が飾られていて季節感が味わえるようになっている。大地新聞には楽しく笑顔の利用者が窺えた。テーブルの配置を変えることで、気分も変わるのでストレスの軽減に繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外はご自分の好きな場所で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日使っていた日めくりカレンダーをタンスの上に置き、毎日めくっておられる。ひ孫さんの大きい写真を部屋に飾っている。	備え付けは、エアコン、カーテン。馴染みの筆筒やラジカセを持ち込んでいた。壁面には寅が描かれた職員からの大きな年賀状や職員と笑顔で楽しそうな様子の写真が飾られていた。窓を開けると爽やかな風が吹き抜け、快適に過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独歩できる方が躓いて転倒しないよう、安心して歩ける環境作りをしている。		